

「健康科学リソースセンター (RECHS: レックス)」 /

「食のデザインセンター (D-cube)」設立準備のご挨拶

---齋藤邦明(京大)教授・佐々木敏(東大)教授のジョイントプロジェクト支援団体として---

日本の食にエネルギー収支の不均衡があることは改めて言うまでもないことです。海外依存度の高い私達の食エネルギーは過剰に取り込まれてメタボ対策等が必要となり、残飯処理にまで(化石)エネルギーを使っています。また、長寿高齢化の対策として医療費の抑制という深刻な課題も抱えています。従って、色んな面でのバランスのとれた食を基盤とする健康とは何か、そしてその究極のターゲットである個人をを対象とする「食による未病(*)対策」を実現する試みの意味が問われるべきでしょう。この様な背景があって、多面的な意見交換の場として「食と健康をデザインする」というテーマの講演会が愛称 Fkic(エフキック)という「食の知の拠点推進機構」(任意団体)主催で実施される運びとなりました。この機に、経緯と今後の計画などを報告し、ご挨拶に代えさせていただきます。

まず、「健康」に関しては、人間健康科学が専攻分野である齋藤邦明(さいとうくにあき)教授(**)に中心となって頂いており、ベースは臨床(病態)検査学です。課題は、どうすればこの学問が「食と健康」に貢献できるかにあります。つまり、健康の維持に定期的な健康チェックと日々の食事行動が重要なことは、多くの識者によって指摘されている通りです。しかし、現行の臨床検査は疾患診断のために威力を発揮する検査ツールであり、健康維持や不健康の改善に活用されているとは言い難い面があります。齋藤教授は、解決には食習慣並びに食事履歴との因果関係を無視することができないとの発想で「未病マーカー探索プロジェクト」を進めて来ておられます。すなわち、食で解決できる未病状態から、医薬による回復を覚悟しなければならない疾患の予備軍への進行をモニターできるバイオマーカーの開発です(図-1 参照)。

一方、「食」に関しては公共健康医学が専攻分野である佐々木敏(ささきさとし)教授(**)に中心となって頂いており、ベースは疫学保健学です。健康との関連が深い食事(習慣)調査は、多くの可能性を秘めていますが、未だ十分に普及しているとは言えません。この中であって、佐々木教授は、標準化され、かつ国際的評価に耐える食習慣調査として“BDHQ”(**)を開発され、その第一人者として目下「BDHQ 普及プロジェクト」を精力的に進めておられます。ポイントは、健康診断を受ける方々が同時に、かつ長期的に食習慣調査を受けられることにあり、ここで初めて

医療情報と食情報が繋がるという点にあります。結果として、健診後の生活アドバイスの内容は飛躍的に個々人に合わせた内容になると期待されます。

ごく最近、この二つのプロジェクトをさらに進展させることを目的に、両教授がパートナーシップを結んで「個々人のレベルでの健康と食のデザインを可能とするデータベース(DB)構築」を目指すこととなりました。すなわち、同一個人毎に過去に遡って参照できる(Retrospective)バイオリソース(Retro-BR)を基盤とする医療情報と、標準化食情報の統合によるマトリックス DB 構築にあります。この DB には大きな意味と価値があり、食と医療の広範囲な分野での活用が予想されます(図-2 参照)。実際に、未病対策に合わせた「楽しい食スタイル」を提示することも企画されており、実践的ニュートリゲノミクス(Nutrigenomics)実現も夢でなくなりつつあります。

以上のようなことを背景として、医療情報と未病マーカーに力点を置いた Retro-BR の構築を行う「健康科学リソースセンター(RECHS:レックス)」と、食習慣情報と医療情報の統合効果に力点を置いた「食のデザインセンター(D-cube:ディーキューブ)」の二つの非営利団体の設立準備が正式に始まりました。両団体は車の両輪のようにシンクロナイズしながら、あるいは補完しながら進むと予想されます。ともあれ、これは個々人を対象とするテーラーメイド未病対策を視野に入れた抜本的な医療費抑制策とも言える遠大な計画です。皆様方におかれましては、今後とも益々のご支援、ご鞭撻を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

理事長(RECHS) 松尾雄志

(*)未病という言葉は東洋医学で定義されていますが、ここでは「健康のための Primary Defense」の意識として使用しています。つまり、医薬による疾患防御である Secondary Defense との対比での意味合いがあるをご理解ください。

(**)両教授の正式所属名称

- ・齊藤邦明教授 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 医療検査展開学基礎生体病態情報解析学講座
- ・佐々木敏教授 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 疫学保健学講座
BDHQ: Brief-type self-administered Diet History Questionnaire

図-1 齋藤・佐々木プロジェクトの位置付け

齋藤、佐々木両教授のプロジェクトのポイントは、受診者の遡及的な電子化臨床検査/食事調査データにあります。これによって、1)齋藤プロジェクトでは未病予測マーカー開発を促進することができ、2)佐々木プロジェクトでは、BDHQ疫学データを臨床検査データと照合することで、食事調査の応用開発(次世代BDHQ)が可能となります。さらに、疫学的に意味のある母集団を年次的に蓄積でき、国際的評価に値する疫学を実施できます。両者の統合で、テーラーメイド未病対策のための科学的基盤を構築することが可能性となります。

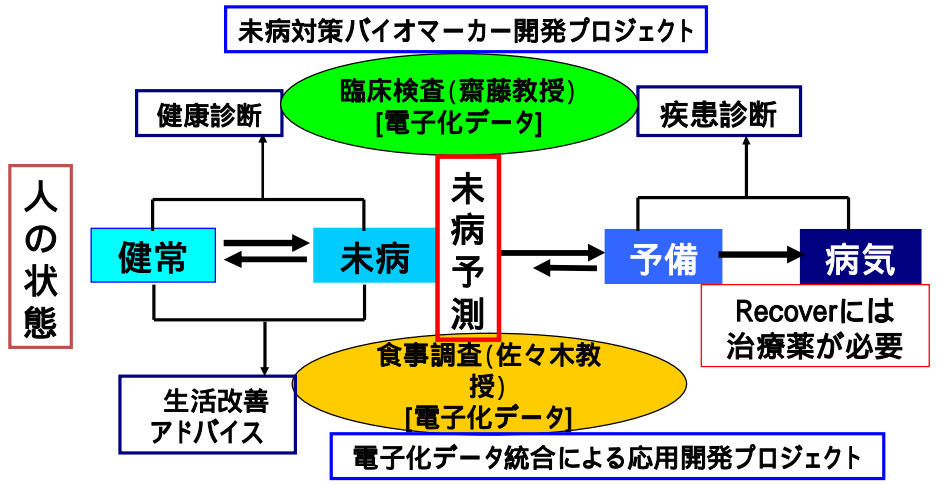


図-2 両団体(RECHS/D-cube)の全体像

